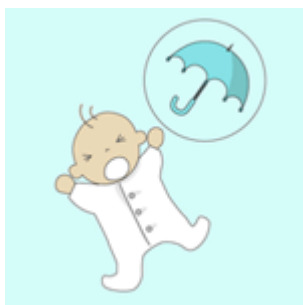


# おねしょ(夜尿症)について

おねしょは、寝ているとき、しらずしらずのうちにおふとんのなか「おしっこ」をもらしてしまうことをいいます。医学的におねしょのことを夜尿症と呼びます。

多くの場合、夜眠っている間につくられるおしっこの量と、そのおしっこをためる膀胱の大きさととのバランスがとれていないために起こります。

以下の様に、年齢とともにおねしょは改善してきます。



●赤ちゃんは、まだ膀胱が小さく、おしっこが昼夜の区別なくつくられるので、夜も昼間とおなじ間隔でおしっこをし、ひと晩に何回もおしっこをします。



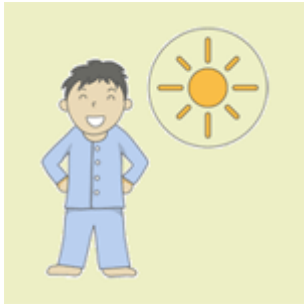
●2～3歳になると、尿意を自覚し始めます。膀胱にためられる量がふえてきます。このころからおねしょを卒業し始めます。



●4～5歳児になると、排尿の抑制と排尿の意図が確立してきます。尿産生の日内リズムもしっかりし、夜間の尿量も減ってくるので、70～80%のお子さんはおねしょをしなくなってきました。



●小学校入学頃でもおねしょがみられるお子さんは15～



20%程度です。高学年になっても持続されるお子様は5～10%程度おられますが、いずれは成長とともに見られなくなるのが一般的です。この時期になると宿泊学習の機会がたびたびありますので、本人が嫌な思いをしないように夜尿症へ治療を開始することが多いです。

## 当院におけるとりくみ

当院では小児科と泌尿器科の夜尿症専門の医師が協調して対応し、より総合的な見地から夜尿症への治療にあたっております。

小児科特有あるいは泌尿器科特有の疾患に由来する特殊な夜尿症かどうかの確認を行うようにしています。ですので夜尿症のお子様は、一度は泌尿器科と小児科を受診していただいております。

「あせらず、おこさず、おこらず」を基本姿勢として、その子の発育と状況に応じて、生活指導、膀胱訓練、アラーム、薬物療法（経口薬あるいは点鼻薬）などといった治療を行っております。